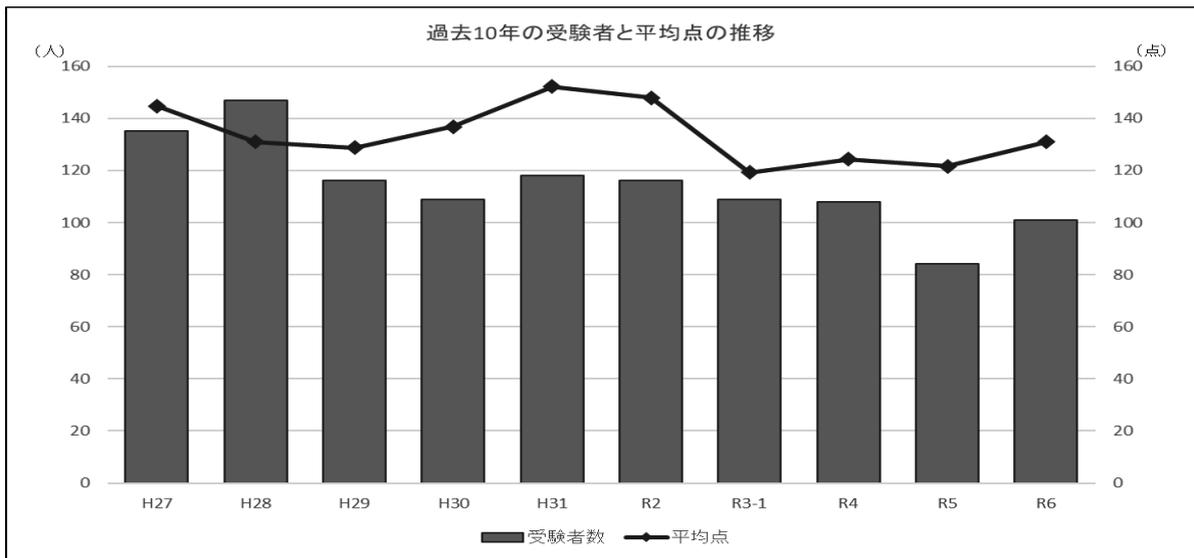


# ドイツ語

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

### 1 前 文

共通テストの受験者は101名であった。昨年度100名を大幅に下回ったが、今年度は、100名以上の受験者数まで回復した。この2年で学習指導要領に変化はないが、コロナ禍を経て、海外との交流が再開され、留学等を経験しドイツ語を受験科目としようとする受験者が一定数いたのではないかと想像している。だが、依然として、英語で受験をする者と比較すると少数であることには変わりはない。



英語以外の外国語の授業は、学習指導要領に「英語に準ずる」としか記載されていない。授業時間が英語よりも少ない場合の多いドイツ語では、教える内容を精査しなければならず、英語のどの部分に準拠するのか授業担当者の判断に委ねられている場合が多い。具体的に例を挙げると、授業をどう行うか、到達目標はどこなのか、それに伴い教科書は何を使用するかは、教えるがわの解釈に任されている。ドイツ語の学習内容は、授業担当者によって多種多様である。また、ドイツ語学習者はドイツ語の学習だけではなく、並行して英語も大学受験に至るまで継続して学習する。高等学校から学習を開始することや英語とドイツ語の学習双方に一定の力をそそがなければならないことを考慮すると、「英語に準ずる」レベルまで到達するには、相当の時間や労力が必要である。このようにドイツ語学習をめぐる状況は多種多様ではあるが、今回も、高等学校におけるドイツ語学習者の平均値ではないのかもしれないが、ドイツ語を「高等学校で3年程度継続して学んできた」受験者と仮定し、評価を行っていききたい。

評価に当たっては、14 ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

### 2 内容・範囲

全体の構成は大問が7つあり、第4問は昨年と比較すると問いの数が1つ減ったものの、1つの問いで2つ解答を選択する形式となっており、設問数は昨年度と変わらず51問であった。文法、特定の場面や状況に応じた会話や長文など、受験者には幅広い学習が求められる出題構成である。

第1問 発音やアクセント、動詞や複数形のつくり方など基本的な知識を問う出題。

- 問1 アクセントのある母音の長短を問う出題。
- 問2 つづりと発音の規則を問う出題。文中にある/ch/の発音が問われている。4つの選択肢のうち2つは複数形であり、単数と複数では/ch/の発音が異なる語である。昨年と同様に文中の語の発音を問うことで、単数と複数の発音が一つの問いの中で扱われていても違和感を覚えることがない。よく考えられた出題である。/ch/の発音は直前の母音によって決まるため、受験者にはその規則を覚えてほしい。
- 問3 国名とその形容詞に関する出題。
- 問4 不規則動詞の人称変化を問う基本的な出題。教科書で目にする anfangen から、④fangen が anfangen の基礎動詞であることに気付けるか。fangen は、動詞の不規則変化を学ぶ際に最近の教科書では余り見かけない。
- 問5 不規則な変化をする動詞のうち、不定形の幹母音「ie」が過去基本形になったときに「o」に変化する動詞を選ぶ出題。問4と同様に、正答③ziehen は、最近の教科書では分離動詞の基礎動詞としてはよく目にするが、ziehen だけでは余り見かけない。
- 問6 複数形の語尾を問う出題。
- 問7 3つのテーマ、A：文房具、B：月の名称、C：衣服に属さない語を探す。消去法でも正答可能。
- 第2問 文法的知識の正確性が問われている。文法事項を着実に学んだ受験者であれば正答を選ぶことができる。
- 問1 gefallen の格支配を問う基本的な出題。
- 問2 ärgern の格支配を問う出題。主語が人ではないことに気づき、再帰代名詞③sich を除外できることが重要。
- 問3 schenken の格支配を問う基本的な出題。
- 問4 von et<sup>3</sup> abhängig sein という特定の前置詞と結びつく形容詞の表現を問う出題。
- 問5 受け身の可能を表す sein zu 不定詞の表現は、最近の教科書では目にするのがほぼない。学んでいる受験者は少ないだろう。意味から類推することも難しい。
- 問6 受動の助動詞の過去形を問う基本的な出題。
- 問7 形容詞の名詞化を問う出題。nichts と用いられる形容詞は中性名詞化する。
- 問8 比較級を強調する表現を選択する出題。文中にある anstrengender が比較級になっていることに気付けるか。また、比較級を強調する際に viel を用いることを知らないと正答②は選べない。
- 第3問 与えられた語を空所に当てはめて、副文や zu 不定詞句を含む文を完成させる出題。不要な選択肢が1つあり、正確な文法の知識を問う出題となっている。
- 問1 設問文前半は分離動詞を含む文の語順が問われている。後半は従属接続詞 damit に導かれる副文の語順が問われているようにみえるが、**17**では、anrufen の格支配が問われている。
- 問2 **18**は、sich freuen とともに用いられる前置詞を文意から選択する出題。出題文後半のコンマ以降では、zu 不定詞句の語順が問われている。
- 問3 主文と関係代名詞に導かれる副文から成る文の並べ替え。副文が受動態で、定動詞を後置することが分かるか。⑥Situation が不要なのは明らかだが、先行詞と関係代名詞が連続していないことに注意が必要。
- 問4 分離動詞 nachdenken を含む主文と不定関係代名詞 was に導かれる副文を組み合わせた並べ替え。副文の主語として用いる語が問われている。副文の定動詞は①sollte であること

から、④wir は選択できない。なお、第5問の 34 を含む文は、不定関係代名詞 was に導かれ、助動詞 sollen で終わっており、解答のヒントと成り得る。

第4問 Fumi, Emilia, Daniel の3人で行われる一連の比較的長い対話等を読み、設問に答える。会話は問いに挟まれる形で時系列に沿って構成されており、前半は動物園の園内に入る前、後半は園内の施設を見ながら行われている。第4問には複数の絵が挿入されている。使用語彙もそこまで難しくなく、絵が挿入されていることで、内容の理解が促進される。問いの前後で場面が切り替わっており、場面展開も分かりやすい。

問1 in Ordnung sein の意味が分かり、文が Aber で始まっており、逆接であることが分かれば、正答③を選ぶのは難しくはない。

問2 3人が Tierpark へ向かう途中の会話終盤にチケットについて話している。その内容を正確に読み取り、総合的に判断する必要がある。

問3 案内図を見ながら展開されている会話のうち、最後の Emilia, Fumi, Daniel の発言を正確に読み取ることができれば、正答②に至る。案内図が挿入されているが、動物の名称がわからなかった受験者には、助けになっただろう。

問4 27 を含む Fumi のセリフの言い換えとしてふさわしいものを選ぶ。キーワードは natürlich。Natur との関連に気づいてほしい。

問5 28 の後に、「正に反対だ」と述べていることから、驚くとともに、発言内容の真偽を問うドイツ語を選択する。選択肢は全て口語表現で構成されているが、教科書で目にすることも多く、難しくはない。

問6 下線部⑨以下の会話の内容を正確に読み取る。なじみがなさそうな Pumpe などの語は、設問にある絵に注が入れられており、配慮されている。しかし、絵に描かれている注のない設備が、文中にある Sonnenenergie を産み出すソーラーパネルであること、それが絵の中に設置されていることを受験者に察することを求めてしまっている。設備の名称や位置を察することができなかった受験者は正答に至ることができなかったと思われる。

問7 時刻表現を含め、会話の内容を正確に読み取ることができていれば難しくはない。

第5問 ギムナジウム最終学年の Jan, Hanna, Lukas の3人が、卒業後の身の振り方について、統計資料を見ながら話す会話文を読み、設問に答える。難しい語彙もあるが、前後の発話内容から類推できるような配慮がなされている。

問1 et<sup>4</sup> hinter sich<sup>3</sup> haben の言い換えを選択する。hinter mir という表現から、学校生活が過ぎ去るイメージを持つことができれば、正答①を選択するのはそう難しくはない。前置詞の持つ意味をイメージできるかを問う良問。

問2 後続の Hanna の発言内容から正答を選ぶ。sich orientieren はやや難。

問3 分数の表現を理解しているかがポイント。34 を含む文が統計資料の「keine Idee と回答している人」を指すことが分かるか。他の選択肢と比較した際に②が正答であることは明らかだが、ein Dritte は約 33.3%であり、35%の回答を mehr と表現することが妥当か分からない。

問4 会話に挙がっていない絵を選択する。Büro という語は、教科書で目にはするだろうが、高等学校の学習では自分のこととして扱う機会が少ないため、なじみがなかったかもしれない。

問5 36 の前の Lukas のセリフで Au-pair の仕事内容が説明されており、36 を挟んで Au-pair に行こうかと前向きな発言をしていることから、36 には肯定的な発言を選択する。

問6 内容に合わないものを選択する。卒業後の生活について、誰がどのようなことを述べて

いるのか整理できれば、正答を選ぶことは難しくはない。

第6問 こだわりの強い男性が主人公の物語からの出題。一貫して現在形が用いられており、これまで扱われてきた過去形を用いた文より親しみやすい。本文に注はついていないが、出題の後半が日本語でなされており、注の役割を一部担っている。

問1 選択肢の出来事を、物語の中で実際に起こった順に並べ替える。各選択肢の内容は、本文を踏襲しており、本文と選択肢を精読すれば並べ替えるのは難しくはない。ただし、起点となる出来事は定められているが、途中で配列を確認するための文が提供されていないため、6つある選択肢を正しい順に並べることができた受験者は50%に満たなかった。

問2 正答③に含まれる Kenntnis はなじみがないかもしれないが、消去法で正答に至ることは可能。

問3 誤答に含まれる「身が引き締まる」「優越感」「完璧な人間」などのキーワードに相当する表現が本文に見当たらず、下線部④の直前に vor Freude とあることから、正答①を選択する。喜びを表現するドイツ語として、sich freuen はよく利用するが、Freude は受験者にとって余りなじみがないかもしれない。

問4 本文に照らしてふさわしくないものを選ぶ。正答は④であるが、①や②に挙げられている「徹底的に」「とにかく多くの時間」といった男性の行為を、本文から正確に読み取ることができず、正答の選択に迷う可能性が高い。

問5 内容に合う日本語の記述を選ぶ。①と⑥が正答であることは分かるが、問3や問4を解答する際に本文の内容をやや拡大解釈する必要があったことを踏まえると、男性にはこだわりを持った行為をするための時間や暇があったと解釈し、②を選択した受験者もいたのではないか。

第7問 13歳の少年 Jonte が環境のことを考えて行ったことを取り上げた雑誌記事からの出題。環境問題をテーマとしているが、専門用語も少なく、本文の後に絵と絵の説明文が掲載されていることから、読みやすい。昨年度と同様に問1～5はドイツ語での出題である。選択肢には、本文に利用されている語句が散りばめられており、正答に至るためには本文の内容と選択肢の内容が一致しているか精読する必要がある。

問1 第1段落の内容に合うものを選ぶ。設問の従属接続詞 indem はやや難しい。設問にある verkaufen と、本文の ein Geldstück stecken が同義であることが分かれば正答に至る。spenden はやや難。

問2 kein ..., sondern ... と statt を利用した書換えを見抜けるか。やや難。

問3 auf den Gedanken kommen という表現が理解できないと、正答に至るのは難しい。

問4 第3段落5行目からの文の言い換えを選択する。

問5 第4段落1文目の内容が設問で取り上げられており、2文目の内容を [49] に当てはめる。本文の schnell verkauft が正答④では gerne gekauft werden と言い換えられている。

問6 [50] の正答を得るために、3段落目を精読していれば正答を選ぶのは難しくはない。

問7 正答②にある Lebensräume は難。Lebensräume という語は本文には登場せず、意味が理解できなかった受験者もいたに違いない。本文を通じて語られている bienenfreundlich という方向性が分かっていたら正答を選べるかもしれない。

### 3 分量・程度

昨年度の共通テストと使用語数はほぼ変わらない。難易度も同程度であり、読みにくさや組みみにくさは感じない。

#### 4 表現・形式

語彙や表現に関する注は余りなかったが、挿入されている絵や本文に使用する語が工夫されていて、設問の日本語などから理解が進むような配慮を感じた。

今年度の共通テスト「ドイツ語」には、「適当でないもの」や「書かれていないもの」の選択、消去法を用いなければ正答に至らない形式、あるいは、本文には明示されていない事柄を想像して解答を選択せざるを得ない出題が多く見られた。このような出題形式を否定はしないが、出題するのであれば、本文内にある語や表現を注意深く読み取ることで、排除すべき選択肢が明確となるようにしてほしい。

共通テスト「ドイツ語」にはリスニングの設定がなく、受験者にアクセントや母音の長短への意識を持たせるためにも、アクセントなど発音に関する出題を維持してほしい。「思考力・判断力・表現力等」を問うことを共通テストでは意識しているのかもしれないが、記述式の出題がない中で、それらの能力を問うには限界があると感じている。長文からの出題では、局所的な理解を問うのではなく、正答を導き出すためには広範囲にわたって精読する必要があった。全体的に、一問一答のように知識だけを問う問題が少なかった。

#### 5 ま と め（総括的な評価）

令和7年度試験までは、共通テストに英語以外の外国語が残ることが決まり安どしているが、それ以降の実施は保証されていない。3年間継続してドイツ語を学ぶことのできる環境にいる生徒や教師は、常に、大学入試あるいは、共通テストに英語以外の外国語があるかないかについて不安を抱き、翻弄され続けている。

AIを駆使した翻訳ツールや、スマートフォンをかざせばその語の意味を母語へ変換表示ができるアプリなど、技術の進歩は止まらない。それがあれば外国語を学ぶ必要性を感じない人もいるかもしれないが、人工知能が瞬時に翻訳することをうのみにしない、言語の知識を有する人材の育成が必要であろう。また、知識量だけではコンピュータに及ばなくとも、それを活用し、使う場면을批判的に判断できる人材の育成も必要であろう。

高等学校には、英語以外の外国語を学ぼうとする生徒が一定数存在している。そのような外に向けて目が開かれた生徒たちが、発展していく技術や学習した言語を駆使して、世界の懸け橋となることを期待している。

前文で触れたように、英語とは違いドイツ語の学習環境は多種多様であり一般化することができない。その中で、高等学校の現状を鑑みて、英語以外の外国語学習に対して意欲的に取り組む生徒の実力が測れるような「ドイツ語」の問題作成に、多くの時間と労力を割いてくださっている問題作成委員の方々に心から感謝申し上げます。英語プラス1言語を学び、受験しようとする者を評価する試験であり続けることを願う。